

大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F126310107626	設置等組織名	情報学部（情報学科）、環境サステナビリティ学部（環境サステナビリティ学科）
大学名	龍谷大学	設置区分	私立	事業計画名	龍谷大学「情報学部」及び「環境サステナビリティ学部」設置計画
学校種	大学	都道府県	京都		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-① 令和6年8月～令和7年3月 教育内容充実・構想の具体化のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-② 令和6年8月～令和7年3月 構想の具体化のためのコンサル支援（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-③ 令和6年8月～令和7年3月 構想の具体化のための社会動向等調査の実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-④ 令和7年4月～令和8年3月 教育内容充実・構想の具体化のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑤ 令和7年4月～令和8年3月 構想の具体化のためのコンサル支援（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑥ 令和7年9月～令和8年3月 令和8年4月の設置届出を見据えた学生確保（人材需要）に係るニーズ調査の実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑦ 令和7年9月～令和8年3月 新学部の認知度・訴求力向上のための広報活動実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑧ 令和8年4月 令和8年4月の設置届出を行うためのコンサル支援（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑨ 令和8年4月 新学部の認知度・訴求力向上のための広報活動実施（情報学部・環境サステナビリティ学部）	1-① 令和7年2月 教育内容充実・構想の具体化のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-② 令和6年9月～令和6年12月 構想の具体化のためのコンサル支援や外部調査等の実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） ※令和6年10月4日 計画変更承認通知 【改組内容】 ・令和6年 環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科について、入学定員を190人から130人に変更して検討中	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前編し	2-① 令和7年10月～令和8年3月 教育研究環境整備のため瀬田キャンパス6号館改修（情報学部・環境サステナビリティ学部）		○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和8年4月 情報学部及び環境サステナビリティ学部 設置届出予定			
フェーズ1 後編し	1-⑨ 令和8年5月～令和9年3月 令和8年4月から継続 新学部の認知度・訴求力向上のための広報活動実施（情報学部・環境サステナビリティ学部）		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	2-① 令和8年4月～令和9年3月 令和7年から継続 教育研究環境整備のため瀬田キャンパス6号館改修（情報学部・環境サステナビリティ学部） 2-② 令和8年4月～令和9年3月 教育内容充実のための実習室設備整備（情報学部・環境サステナビリティ学部） 2-③ 令和8年4月～令和9年3月 教育内容充実のための実習準備室設備整備（情報学部・環境サステナビリティ学部） 2-④ 令和8年4月～令和9年3月 教育環境充実のためのロッカー室設備整備（情報学部・環境サステナビリティ学部） 2-⑤ 令和8年4月～令和9年3月 研究環境充実のための研究室設備整備（情報学部・環境サステナビリティ学部） 2-⑥ 令和8年4月～令和9年3月 教育研究支援環境充実のための事務室設備整備（情報学部・環境サステナビリティ学部） 2-⑦ 令和8年4月～令和9年3月 教育研究環境充実のための共同機器整備（情報学部・環境サステナビリティ学部） 2-⑧ 令和8年4月～令和9年3月 教育研究環境充実のためのフィールドワーク施設設備整備（環境サステナビリティ学部）		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和9年4月 情報学部開設予定（入学定員130名、編入学定員3名、工学関係） 令和9年4月 環境サステナビリティ学部開設予定（入学定員190名、編入学定員2名、工学＋経済学関係）			
フェーズ2 後編し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	3-① 令和9年4月～令和10年3月 教育研究支援環境充実のための事務室機能の向上（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-② 令和9年4月～令和10年3月 教育内容充実のためのゲストスピーカーを招聘した講演会の開催（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-③ 令和9年4月～令和10年3月 教育内容充実のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-④ 令和9年4月～令和10年3月 新学部の認知度・訴求力向上のための広報活動実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑤ 令和10年4月～令和11年3月 教育研究支援環境充実のための事務室機能の向上（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑥ 令和10年4月～令和11年3月 教育内容充実のためのゲストスピーカーを招聘した講演会の開催（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑦ 令和10年4月～令和11年3月 教育内容充実のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑧ 令和10年4月～令和11年3月 新学部の認知度・訴求力向上のための広報活動実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑨ 令和11年4月～令和12年3月 教育研究支援環境充実のための事務室機能の向上（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑩ 令和11年4月～令和12年3月 教育内容充実のためのゲストスピーカーを招聘した講演会の開催（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑪ 令和11年4月～令和12年3月 教育内容充実のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑫ 令和11年4月～令和12年3月 新学部の認知度・訴求力向上のための広報活動実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑬ 令和12年4月～令和13年3月 教育研究支援環境充実のための事務室機能の向上（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑭ 令和12年4月～令和13年3月 教育内容充実のためのゲストスピーカーを招聘した講演会の開催（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑮ 令和12年4月～令和13年3月 教育内容充実のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑯ 令和12年4月～令和13年3月 教育内容の質的向上に向けた社会変化、学生の満足度に係る総合的調査の実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） 3-⑰ 令和12年4月～令和13年3月 新学部の認知度・訴求力向上のための広報活動実施（情報学部・環境サステナビリティ学部）		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和6年4月 社会学部既設学科（学生募集停止）を基礎とする総合社会学科の設置届出（これにより108人減員）（入学定員450名、編入学定員10人、社会学・社会福祉学関係） 令和7年4月 社会学部108人減員予定（同上） 令和7年4月 先端理工学部知能情報メディア課程学生募集停止の報告予定（入学定員103名、編入学定員2人、工学関係） 令和7年4月 先端理工学部環境科学課程学生募集停止の報告予定（入学定員88名、編入学定員2人、工学関係） 令和8年4月 先端理工学部知能情報メディア課程103人減員に係る届出予定（同上） 令和8年4月 先端理工学部環境科学課程88人減員に係る届出予定（同上） 令和9年4月 先端理工学部知能情報メディア課程103人減員予定（同上） 令和9年4月 先端理工学部環境科学課程88人減員予定（同上）	令和6年4月 既設学科（学生募集停止）を基礎とする総合社会学科の設置届出（これにより108人減員）（入学定員450名、編入学定員10人、社会学・社会福祉学関係） 令和7年4月 社会学部108人減員（同上） 令和7年4月 先端理工学部知能情報メディア課程学生募集停止に係る報告（入学定員103名、編入学定員2人、工学関係） 令和7年4月 先端理工学部環境科学課程学生募集停止に係る報告（入学定員88名、編入学定員2人、工学関係）		

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	龍谷大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

■ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

■ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

■ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

■ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

■ チェック

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>■ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	■ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	■ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	■ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	■ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80％を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5％を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	■ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	■ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>■ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	龍谷大学
-------------	-------	-----	------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
既に、データサイエンス学部を設置している大学との連携体制を構築する。それらの大学の事例を参考としつつ、本学情報学部における実践的な演習の展開について検討する。また、本学既設の先端理工学部及び農学部で実施している「アグリDX人材育成事業」（文部科学省の大学改革推進等補助金（デジタル活用高度専門人材育成事業）「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する 高度専門人材育成事業」採択事業）における成果や課題、また具体的なデータ等を同大と共有し、双方の教育内容の充実につなげる。 多様な入学者の確保にあたっては、社会人学生への対応として、LMSの効率的な利用を図り、講義のオンデマンド教材およびオンライン小テストによる学習状況の把握、オンライン授業科目（高度メディア利用授業）を開設するなどを計画している。（情報学部） 環境やサステナビリティについては、多岐にわたる学問分野・テーマであるため、多様な主体との共創が肝要である。そこで、個別具体の課題に対応した学修プログラム（科目パッケージ）を設ける計画である。このような観点から、本学の教学資源として不足のある分野においては、他機関との連携を計画中である。具体的には近隣大学との連携を通じて分野横断的教育研究を進めたり、プロジェクト研究や学外実習などで滋賀県中小企業団体中央会、REC会員企業、（公財）大学コンソーシアム京都、（一社）環びわ湖大学・地域コンソーシアムとの連携を計画している。 多様な入学者の確保にあたっては、一般入学選抜試験において理系型入試及び文系型入試を導入し、必要に応じてリメディアル教育を施すことにより、理系・文系を問わずコース選択可能とする他、入学選抜試験においてプレゼンテーションなどを課して学生の主体的活動姿勢を評価する総合型選抜入試や女子学生特別校を導入する。また、近隣の高等学校との高大連携プログラムを通じて探求学習の面白さや大学での学びの魅力を伝え、意欲的な入学者の確保に努める計画である。（環境サステナビリティ学部）	情報学部では、今後の教育・研究の高度化および実践的な学びの充実を目指し、データサイエンス学部を設置している他大学への訪問を継続的に実施している。これにより、先進的な教育手法やカリキュラム構成、演習の展開方法などについて情報収集を行い、連携体制の構築や教育内容の高度化に向けた検討を進めている。 また、情報学部が開設される滋賀県という地域特性を活かし、地元の行政機関や企業への訪問も積極的に行っている。これらの訪問を通じて、地域社会との連携を深め、企業や自治体と協働した実践的な学びの場（PBL等）を提供するための科目整備についても検討を進めている。 さらに、「情報×○○」という形で、情報学を基盤としつつ、他分野との融合によって社会課題の解決に取り組む教育体系の構築を目指している。これにより、学生が多様な分野を横断的に学び、複雑化する現代社会の課題に柔軟かつ創造的に対応できる力を育成することができるよう検討を進めている。 環境サステナビリティ学部では、持続可能な社会の実現に向けて、企業、自然保護団体、行政機関など多様な主体との連携体制の構築を模索しており、これらの関係機関への訪問を継続的に実施している。これにより、現場の課題やニーズを把握し、教育・研究活動に反映させることを目指している。 本学部が扱うテーマは多岐にわたり、環境、経済、社会など幅広い分野にまたがるため、こうした多様な主体との共創が極めて重要である。そのため、個別具体の課題に対応できるよう、5つの学修プログラム（科目パッケージ）を設ける計画を進めており、学生が自身の関心や将来の進路に応じて柔軟に学びを深められるような体系の構築を検討している。 また、企業や自治体と連携した実践的な学びの場（PBL等）の整備についても検討を進めており、地域社会と連携した教育活動を通じて、学生が実社会の課題に主体的に取り組む力を養うことを目指している。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生への受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☒ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.龍谷大学先端理工学部の情報系の入試では、3教科(数学・理科・外国語)としているが、情報学部の入試では、2教科(数学・外国語)とすることを想定している。また、プログラム課題や実習レポートを活用した総合型選抜入試枠の設置を検討する。（情報学部） b.理系女子学生確保のために、女子学生を対象とした大学生生活体験・説明会の開催、龍谷大学先端理工学部 に在籍する女子学生の学びやキャリアに着眼した広報媒体（動画など）の制作を行う。（情報学部） c.これまでの高大連携事業の発展として、高校生が所有するノートPC等を利用した実習を含む高大連携授業の拡充を検討する。（情報学部） d.模擬講義動画を制作し、教育プログラムの広報に努め、オンライン授業を中心とした講義および土曜日実施の演習による履修証明プログラムの開発を行う予定である。（情報学部） a. 入学者選抜において、理系型および文系型入試を設け、受験科目として数学IIIを課さない入試形態を導入する。また、昨今のAI技術の利用を想定して国語を重視した受験形態も設ける予定である。大学での学びの根幹をなす受験生の興味関心や主体性を評価するため、受験生自らが行うプレゼンテーション等を通じて受験生のSDGsに関する主体的な取り組みを丁寧に評価する総合型選抜入試を実施予定である。（環境サステナビリティ学部） b. 女子学生には理科科目として生物選択者が多く、数学III選択者が比較的小さいという調査結果を踏まえ、a.に記載の通り、数IIIを必要としない受験形態を導入する。加えて、女子学生特別枠の設置を検討している。これまで本学への進学実績が高い近隣の高等学校を中心としてa.に記載の入試形態の導入を含めて個別に説明を行うことを計画している。（環境サステナビリティ学部） c. 龍谷大学付属平安高等学校や京滋地域の高等学校・小中学校との間で模擬講義や探求型学習の実施について協力をする予定である。（環境サステナビリティ学部） d.サステナビリティ分野では時代とともに社会に必要とされる能力も変化すると考えられることから社会人向けのリカレント/リスキング教育プログラムの提供を計画している。（環境サステナビリティ学部） e.留学生の受け入れを促進するため、留学生向け奨学金制度や学生寮への優先入居制度を設けるとともに外国人留入学入学試験を設定することを計画している。（環境サステナビリティ学部）	【情報学部】 a. 龍谷大学先端理工学部の情報系入試では3教科（数学・理科・外国語）を課しているが、情報学部では2～3教科（数学・外国語）とする入試制度の導入を検討している。また、プログラム課題や実習レポートを活用した総合型選抜入試枠の設置についても検討する。 b. 理系女子学生の確保を目的として、女子学生を対象とした大学生生活体験・説明会の開催を検討している。加えて、龍谷大学先端理工学部 に在籍する女子学生の学びやキャリアに焦点を当てた広報媒体（動画等）の制作についても検討している。 c. これまでの高大連携事業を発展させる形で、高校生が所有するノートPC等を活用した実習を含む高大連携授業の拡充を検討している。 d. 模擬講義動画の制作を通じて教育プログラムの広報に努めるとともに、オンライン授業を中心とした講義および土曜日実施の演習による履修証明プログラムの開発を検討している。 【環境サステナビリティ学部】 a. 理系型および文系型の入試形態を設け、数学IIIを課さない入試制度の導入を検討している。また、AI技術の活用を見据え、国語を重視した受験形態の導入も検討している。さらに、受験生の興味関心や主体性を評価するため、SDGsに関するプレゼンテーション等を通じた総合型選抜入試の実施を検討する。 b. 女子学生には理科科目として生物選択者が多く、数学III選択者が少ないという調査結果を踏まえ、aの記述にある通り、数学IIIを必要としない入試形態の導入を検討している。加えて、女子学生特別枠の設置も検討しており、進学実績の高い近隣高等学校を中心に個別説明を行うことを計画している。 c. 龍谷大学付属平安高等学校や京滋地域の高等学校・小中学校と連携し、模擬講義や探求型学習の実施について協力することを検討している。 d. サステナビリティ分野における社会的ニーズの変化に対応するため、社会人向けのリカレント教育およびリスキング教育プログラムの提供を計画している。 e. 留学生の受け入れ促進を目的として、留学生向け奨学金制度や学生寮への優先入居制度の整備、ならびに外国人留学生入学試験の設定を計画している。	商学部とも各項目の検討には着手しているが、具体化までは至っていない。令和7年度に計画しているコンサル支援等を活用しつつ、各取組を具体化させていく予定である。

大学名	龍谷大学
-----	------

本事業対象となる学部等の個数	2
----------------	---

1.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)	改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
	学部学科名	情報学部 情報学科

[illegible]

大学名	龍谷大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	5,138	5,036																	
		入学者数	人	5,151	5,336																	
	その他の学期	入学定員	人	35	35																	
		入学者数	人	8																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	5,173	5,071																	
		入学者数(B)	人	5,159	5,336																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.00	1.05																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	20,526	20,636																	
		編入学定員	人	334	342																	
		在籍者数(D)	人	20,798	21,444																	
		編入学者数	人	58	75																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.01	1.04																	

4.外部資金の状況（全学）

年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況		選定－6年	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定													
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	1,018,697	1,131,983	1,069,843	1,098,117	1,108,920	1,056,545													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	1,092,293
本事業による助成金の額(F)	千円	2,569,999
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	1,156,543

特記事項